

特別支援教育課通信 北山の陽だまり



平成29年10月発行 (第30号)

【紅葉の始まった櫟と研修センター】

秋の長雨，時季外れの台風…今年も，さわやかな秋を感じる天候の日が少なく10月が終わろうとしています。朝晩はめっきり寒くなり，ここ北山の広葉樹は，紅や黄色に色づき始めました。

学校現場では，文化祭や合唱コンクール，家族まつり，学習発表会，授業研究…等，学校行事や学力向上でご多用の毎日かと思えます。県内においてインフルエンザも発生したようです。児童生徒も教職員も体調を崩さないように留意していきたいものです。

さて，特別支援学校の若手教員（初任者）研修講座に「小学校参観」があります。本年度は，水戸市立城東小学校，日立市立大久保小学校，筑西市立川島小学校の3校に協力していただきました。

3校すべてに共通していたのは，

- ①管理職の特別支援教育に関する理解と協力があること
- ②特別支援教育コーディネーターを中心に，全職員で配慮を要する児童の理解と支援に努めていること
- ③全校体制で，ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や環境づくりをしていること

です。「連続性のある多様な学びの場」と言われます。小・中学校から特別支援学校に措置変更で来る子供たちが，通常の学級や特別支援学級でどのような指導を受けたり，生活したりしているのかを，授業参観や給食・昼休みの遊び・清掃…などを通じて垣間見ることができたようです。

特別支援教育課長

【 学習に困難のある児童生徒への授業デザインを考える 】

10月24日(火)，「発達障害等のある児童生徒への指導法研修講座」第2日目が行われました。今回は，学習支援を中心に研修を行いました。午前中は，(株)LITALICOジュニアスパーバウダーの吉田有里先生を講師に迎え，「困難さのとらえ方」や「実際の支援と評価」について講義をしていただきました。



【吉田先生による具体例を交えた講義】

教室で実際に活用している教材を見せていただいたりしたことで，教材作成のヒントを得ることができたようです。

午後は，小・中・高等学校の校種に分かれて学びに困難のある児童生徒への具体的な手立てについて考えました。今回は，通常の学級担任の先生方が多く参加して下さいました。先生方の熱心な姿に，頼もしさを感じる研修となりました。